

現場から 夏をむかえて

「藤沢清流高校」としての3度目の夏の大会を迎えるにあたり、日々ご指導をされている濱田監督、鵜戸部長、三浦コーチよりコメントをいただきました。

《顧問 濱田雅弘監督より》

藤沢清流高校として参加する3度目の選手権大会がやってまいりました。

今年のチームは3年生10人、2年生17人、1年生12人で構成されております。メンバーには2年生が半数以上名を連ねる若いチーム状態です。正直なところここまでの練習試合は悲惨でした。部員数が整ってきたにも拘らず、5月は11連敗するなど、投手陣が打ち込まれ、打撃も振るわず、守備も凡ミスで試合内容は最悪の状態が続きまして。ストレスが蔓延すると負の連鎖が始まり大敗の連続となりました。

しかし、ここにきてようやく落ち着いた試合ができるようになりました。

この夏も相手がどこであれ、**3年生が2年間の経験で意地を見せ、2年生は怖いもの知らずでパワーを爆発してくれれば好結果が出る**と信じております。

最後まで選手の力を信じておりますので、この夏も、これからもご声援のほどよろしく願いいたします。

《顧問 鵜戸紘一郎部長より》

藤沢清流高校として3度目の夏の大会を1か月後に控えました。トーナメント表を机に置いて俯瞰すると、「こんなにも沢山の学校がたったひとつの椅子をめぐるで戦うのか」と、改めて神奈川県予選の壮絶さを実感しています。

現在のチーム状況は選手の故障が続いたこともあり、なかなか満足いく試合運びはできていません。残された時間で故障からの復帰を待つとともに控えの底上げを急ピッチで進める必要があると感じています。部長としては、これからひと月はチームの結束力を高めることに注力したいと考えています。まずは、初戦突破。一球一球に気持ちを込めて全員参加で戦い抜きたいと思っています。

《三浦慎吾（大清水高校26期生）コーチより》

6月も半ばが過ぎ熱い熱い夏の大会までの時間が刻一刻とせまってきました。

私は、大清水高校野球部第26期生で、昨年度は保健体育科の非常勤講師として、今年度は教員補助として藤沢清流高校で勤務しております。野球部では、濱田監督、鵜戸部長、川島・加藤顧問の元、コーチとして指導をさせていただいております。

さて、夏に向けてということなのですが、昨年は指導をしてすぐに夏の大会を迎えることになり、何をしたいのかわからないまま終わってしまいました。今年は1年以上選手を見ているので成長を感じながらここまでできました。

現チームは好不調の波が激しく、『よし！だいぶ形になってきたぞ！！』という話をしはじめると、翌週のゲームでは別のチームを見ているかのようなゲーム内容をして、大差で負けるという試合がいくつかありました。

しかし、その悔しさ、やりきれない気持ちは各々の選手が感じていると思うので、この夏の大会で思いっきりぶつけていってほしいと思います。

昨年は、多くのOBの方々に以前と変わりなく球場に足を運んで応援していただき、一丸となって戦っているのを感じ嬉しく思いました。

お忙しいとは思いますが、是非とも今年も球場に足を運んでいただき、チーム一丸となって1つでも多くの勝利をつかんでいければと思っております。

よろしく願いいたします。